

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Dietary Inflammatory Index During Pregnancy and the Risk of Intrapartum Fetal Asphyxia: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠中の向炎症食と分娩時胎児アシドーシスの関連について エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Nutrients

年: 2020 月: 11 巻: 12(11): 3482 頁:

筆頭著者名: 経塚標

所属UC名: 福島UC

目的:

妊娠中の炎症をもたらす食事の摂取程度と、分娩時の胎児低酸素状態(へその緒の動脈におけるアシドーシスの有無)の関連を調べました。

方法:

エコチル調査にて経膈分娩をされた妊婦を対象としました。妊娠中食事食事質問票より、炎症をもたらす食事の摂取程度(Dietary inflammatory index (DII))を計算し、妊婦をDII値により5グループに分類し、さらに初産婦、経産婦に分類しました。そして、妊娠中のDII値と分娩時の胎児低酸素状態に関連があるか調べました。

結果:

本研究の対象者は、56490人でした。調査の結果、はじめて経膈分娩を経験する妊婦さんでは、高DII値つまり向炎症食を摂取していたグループは、生まれたときの子どもの低酸素症状状態(pH < 7.10)と関連があることが分かりました。

考察:(研究の限界を含める)

本研究の結果から、妊娠中の向炎症食摂取により子宮内炎症を誘発し、胎児低酸素状態に影響を与えた可能性が考えられました。しかし、実際の胎盤の病理検査の情報や分娩時胎児心拍数モニタリングの情報はなく、この因果関係の理由は推察の範囲を超えません。

結論:

妊娠中の食事の改善により、子どもの将来の健康状態が改善される可能性が示唆されました。